

5 地域活動（キャンパス周辺地域での活動）

5.1 横浜地域活動

学生チーフ総括

今年度は、横浜地域活動の学生人数が約 40 人と非常に多く、大規模団体であることに対して、プラスな面もマイナスな面もあった。まずプラスな面は二つある。一つ目は1度のイベントで多くのブースを出展できたことだ。横浜地域活動の主な活動として、戸塚近辺で開催されるお祭り子ども向けのブースを出展するという活動がある。大人数であることを生かし、6~8のブースを出展し子どもたちを飽きさせずに楽しんでもらうことができたと思う。さらに子どもたちだけでなく、保護者の方でもブースに対して興味を持ってくださる方もいたため、非常に嬉しかった。二つ目はさまざまな意見を聞き入れることができたことだ。大人数であるからこそ、それぞれが持つ意見も違うため、メンバー内で意見交換を定期的に行うよう心がけた。基本的には週に1度のミーティングのほかに、各イベント後にロングミーティングといった反省会を実施した。反省会によって、全員で良かった点、改善すべき点を認識でき、次のイベントにつながるよう努力した。また、お祭りに出展するブースを決める際にも、さまざまなアイデアが出たので、より視野を広げてブースをつくることができた。次にマイナスな面としては、それぞれのボランティアに対する熱意の違いがあることだ。人数が多い分、積極的に活動に参加したいと考える人もいれば、自分に余裕があるときだけ参加したいと考える人もいる。どちらの側にも対応できるように、横浜地域活動としての活動内容を広げることが来年度へ向けた課題だと思う。短期的、長期的に実施できるボランティアをメンバー内で考え、メンバー全員が張り詰めすぎず、楽しむことも大切にしながら活動できるようにしたい。

(学生メンバー 国際学部国際学科)

●2018 年度「横浜地域活動」の主な活動

日にち	内容（参加人数）
4/10（火）・4/11（水）・ 4/12（木）	「ボランティアサークル合同説明会」 ※ボランティアに興味のある新生、さらに今まで興味を持ったことがなかった新生に、明治学院大学のさまざまなボランティアサークルを日替わりで紹介。横浜地域活動メンバーが司会。 【参加サークル】 JUNKO Association／横濱てらこや／MG ハロドッグ／NYANCO／NPO 法人鎌倉てらこや／エコキャンパスミーティング／MMM（みなとメディアミュージアム）／OPENROOM／僕らの夏休み Project／手話サークルぽっけ／ハビタット MGU／カンボジア教育支援団体ぽけっと／NPO 法人つばさ／STUDY FOR TWO 明治学院大学支部／横浜地域活動（登場日順） （4/10：運営学生 2 名、参加者 75 名、4/11：運営学生 2 名、参加者 75 名、4/12：運営学生 2 名、参加者 76 名）
4/21（土）	「とっとの芽」（プチ 1Day）（5 名）
5/13（日）	柏尾川魅力づくりフォーラム「第 23 回戸塚駅周辺魅力アップキャンペーン」 清掃活動に参加（2 名、職員 1 名）

5/19 (土)	「とっとの芽」(プチ 1Day) (5名)
5/26 (土)・5/27 (日)	大学祭「戸塚まつり」で子ども向けお祭りブースを企画・実施 (5/26:26名、5/27:19名)
6/3 (日)	戸塚区原宿商店街・松栄会「ふれあいフリーマーケット」で子ども向けブースを企画・実施 (1 Day for Others 協働プログラム) (38名 (内、セクションメンバー29名))
6/16 (土)	「とっとの芽」(1 Day for Others 協働プログラム) (5名)
7/21 (土)	・「とっとの芽」(プチ 1Day) (3名 (内、セクションメンバー1名)) ・「小田急分譲地自治会夏祭り」にボランティア参加 (9名、職員1名)
9/9 (日)	柏尾川魅力づくりフォーラム「第24回戸塚駅周辺魅力アップキャンペーン」清掃活動に参加 (3名、職員1名)
9/23 (日)	「とつか宿場まつり」(1 Day for Others 協働プログラム) (44名 (内、セクションメンバー34名))
10/14 (日)	戸塚区原宿商店街・松栄会「ふれあいフリーマーケット」で子ども向けブースを企画・実施 (1 Day for Others 協働プログラム) (27名 (内、セクションメンバー23名))
10/26 (金)	上倉田地区資料作成ボランティア (1名、職員1名)
11/11 (日)	横浜市民防災センター「オータムフェスタ 2018」で子ども向けブースを企画・実施 (7名)
11/17 (土)	・「とっとの芽」(プチ 1Day) (5名 (内、セクションメンバー1名)) ・倉田小学校地域防災拠点 防災訓練 (2名)
1/25 (金)	上倉田地区資料作成ボランティア (1名、職員1名)
3/10 (日)	「3.11 被災地応援イベント～あの時と今～」 横浜市民防災センターで横浜地域活動、陸前高田復興支援プログラムのメンバーが来場する子ども向けのブースを出展 (11名)
3/16 (土)	「とっとの芽」(5名 (内、セクションメンバー1名))

◇とっとの芽 (戸塚区地域子育て支援拠点)

目的	・戸塚区地域子育て支援拠点「とっとの芽」で子どもたちと触れ合う ・明治学院大学学生に「とっとの芽」の活動について知ってもらう
場所	横浜市戸塚区地域子育て支援拠点「とっとの芽」
活動内容	子どもたちや保護者の方々との触れ合い
活動日時、参加人数	1. 2018年4月21日(土) 9:30~12:00、5名(プチ 1Day) 2. 5月19日(土) 9:30~12:00、5名(プチ 1Day) 3. 6月16日(土) 9:30~16:00、5名(1 Day for Others 協働プログラム) 4. 7月21日(土) 9:30~12:00、3名(内、セクションメンバー1名)(プチ 1Day) 5. 11月17日(土) 9:30~12:00、5名(内、セクションメンバー1名)(プチ 1Day) 6. 2019年3月16日(土) 9:30~12:00、5名(内、セクションメンバー1名)

実施概要

戸塚区には「とっとの芽」という地域の子育て支援拠点がある。そこは、親子の集まる場所となっており、子育ての悩みを相談することもできる子育ての支援の場である。「とっとの芽」での活動は、掃除をすることから始まり、親子が集まってきたら、広場で子どもたちと触れ合ったり、保護者とお話をしたりする。お昼前になると、おもちゃの片付けをして、大型絵本の読み聞かせをしたり、手遊びをしたりする。利用者が帰った後は、子どもたちが使用したおもちゃの消毒をする。今年度は、「ふたご、みつごの会」と「クリスマス会」の二つのプログラムにも参加させていただいた。

感想・活動を通して得た学び

「とっとの芽」を利用する子どもたちは0～2歳児が多く、日常生活で関わる機会が少ない年代の子どもたちである。その年代の子どもたちはまだ言葉を十分に話すことができないので、一緒に遊んだりコミュニケーションを取ったりすることの大変さを実感した。突然泣き出してしまったり、喧嘩が始まってしまったり、楽しいだけの時間ではなかったが、人見知りの子どもの一緒に遊ぶことで笑顔を見せてくれるなどたくさん貴重な体験をさせていただいた。また、職員の方々や保護者の方々と話すうえで子育ての苦労や喜びを知ることができた。

今後に向けて

将来、結婚して自分の子どもを持った時や、身の回りで小さな子どもと関わる時に「とっとの芽」で子どもたちと触れ合った経験や保護者の方々から伺った子育ての話を生かしていきたい。また、活動を通して小さな子どもたちに関する知識を得ただけでなく、子どもと関わる自信を持つこともできた。時間に余裕がある大学生のうちに子どもたちと触れ合うことができたことは大きかったので、より多くの学生に「とっとの芽」のような子育て支援拠点の活動に参加してもらいたい。

(学生メンバー 国際学部国際学科)

(学生メンバー 心理学部心理学科)

◇戸塚まつり

目的	地域の方々との交流
場所	横浜キャンパス ボランティアセンター前
活動内容	子ども向けお祭りブースの作製・運営
活動日時、参加人数	2018年5月26日(土) 13:00~18:00、26名 5月27日(日) 9:30~16:00、19名

実施概要

横浜地域活動メンバーを五つの班に分け、それぞれで子ども向けのお祭りブースを作製し、運営した。ブースの内容はシャボン玉、輪投げ、風鈴作り、ヨーヨー釣り、スマートボールである。活動開始は春休み中の3月初旬、まず全員でブース案を出していき私たち1年生の中だけでざっくりとした計画を練った。4月に入り新1年生も仲間に加え、週1回のセクションミーティングの他にも班ごとに昼休みに集まるなどして準備を進めていった。当日は遊びに来てくれた子どもたちとの交流に積極的に参加できた。

感想・活動を通して得た学び

私のいたシャボン玉班はシャボン液を自分で作ったり、一度に大量のシャボン玉を作ったりして子どもたちと交流するブースを担当した。その中で、私のチームはガラクタ（ハンガーやうちわの骨組みなど）を使ったシャボン玉作りを担当した。失敗しても次はこれをやってみよう、とたくさん挑戦できたことが良かったと思う。このように準備に時間をかけた分、当日子どもたちの楽しんでいる姿を見るとやって良かったと思えるし、なにより自分たちの達成感につながる良い経験になった。

今後に向けて

シャボン液を子どもたち自身で作ってもらおうと計画したが、あらかじめの用意やシミュレーションが不十分だったため当日上手くいかず、実現することができなかった。自分のチームだけではなく他のチームの進行状況もしっかり見ながら、協力の輪をもっと広げられれば良かったと思う。そして子どもだけでなく一緒に参加してくださったお父さんお母さんや、お年寄りの方にも楽しんでもいただけるようなお祭りブースを考えられると良いと思う。

(学生メンバー 社会学部社会学科)

◇ふれあいフリーマーケット

目的	フリーマーケットに参加した親子に楽しんでもらう
場所	横浜医療センター公開空地（横浜市戸塚区原宿）
活動内容	戸塚原宿商店街が主催するフリーマーケットで子ども向けの遊戯ブースを運営
活動日時、参加人数	2018年6月3日（日）8：30～15：30（1 Day for Others 協働プログラム）、38名（内、セクションメンバー29名） 10月14日（日）8：30～15：30（1 Day for Others 協働プログラム）、27名（内、セクションメンバー23名）

実施概要

横浜市戸塚区原宿の商店街「松栄会」が主催する「ふれあいフリーマーケット」にて、来場する子どもたち向けの遊戯ブースを企画、運営を行った。どのような内容なら子どもたちが楽しめるか、屋外でのイベントであることを考慮して、遊びを工夫しながら活動した。またフリーマーケット全体の運営として「来場者のカウント」「ゴミ分別の誘導」「抽選会」なども行った。運営への協力を通して地域の方々と協力し、交流を深めた。

感想・活動を通して得た学び

松栄会の方との打ち合わせの中で、戸塚原宿地域の課題として若い人が少ないことが挙げられ、子ども向け遊戯ブースの運営は親子連れを呼び込むことにつながっていると知ることができた。また当日は1Day参加者を含め、同じブースを運営する仲間でも子どもの年齢や得意不得意、外の環境（風が強いなど）について気がついたことを共有しながら、ブースでの活動を適宜工夫していくことで、協力していく大切さと難しさを学ぶことができた。



今後に向けて

ふれあいフリーマーケットは年2回毎年参加しているので、今回学んだことや気がついたことを地域の方や学生メンバーで共有し、来年はより良い活動ができるよう努力する。横浜地域活動の継続した活動として今後も松栄会の方と協力していきたい。課題として、活動中それぞれのメンバーが独立して動いている中で、情報の伝達が上手くいかなかった点を今後改善する。戸塚原宿地域で子ども向けに活動する意味について意識し、しっかりと目的・目標を考えながら活動する。

(学生メンバー 心理学部心理学科)

◇小田急分譲地自治会夏祭り

目的	地域の活性化
場所	横浜市戸塚区上倉田町
活動内容	夏祭りに参加し、盆踊りを地域の方と踊る
活動日時、参加人数	《練習会》2018年7月4日(水)3名、7月11日(水)2名、7月18日(水)6名、いずれも19:00～ 《本番》7月21日(土)19:00～、9名、職員1名

実施概要

小田急分譲地自治会夏祭りでは、私たちは地域の方と一緒に盆踊りを踊り、クレープの屋台の手伝いをした。夏祭りの事前準備として、地域の方とともに開催日の1か月前から週1回、盆踊りで踊る音頭の振り付けを教わり練習を重ねた。盆踊りには音頭が約五つあり、戸塚音頭といった地域の音頭があるということを地域の方に教わった。当日は夏祭りならではの浴衣やハッピを着て参加した。

感想・活動を通して得た学び

今回の活動で、戸塚音頭という地域の音頭を踊り地域の方々と関わることで地域活性化につながる事ができたと考えるのは傲慢に思えるが、これからの地域活動の原動力になり得る活動であった。地域の方は皆温かく優しくかった。このような方々に囲まれて戸塚キャンパスでの大学生活を過ごしてきたのだと気づかされると同時に、嬉しく思った。活動を通して、この地域の方のためにもさらなる地域活性化を目指して活動していこうと思えた。

今後に向けて

お祭りを通して地域をより理解することができたので、今後はそれを生かし、地域活性化に向けて活動内容を改めて考えていこうと思う。しかし毎年、例年と同じように盆踊りに参加し踊るというだけではなく、『昨年とは違い、新しいことを理解することができた』などと思えるように活動を行っていきたい。そのためには目標を持って、新しい気持ちで活動に参加していきたい。たくさん学んで、今よりもさらに発展した横浜地域活動にしたい。

(学生メンバー 法学部消費情報環境法学科)

◇とつか宿場まつり

目的	戸塚宿を地域の人に広める
場所	戸塚駅周辺、戸塚区役所（横浜市戸塚区）
活動内容	子ども向けのブースの運営
活動日時、 参加人数	2018年9月23日（日）8:15～16:15（1 Day for Others 協働プログラム） 44名（内、セクションメンバー34名）

実施概要

戸塚区役所や地域で活動している団体の方々とともに、2015年から開催している「とつか宿場まつり」に参加し、スマートボール、輪投げ、クイズラリー、魚釣り、新聞紙ダーツといった子ども向けブースの運営をした。また、スポーツセンターの方と一緒にパラリンピックの正式種目でもあるポッチャを体験できるブースや戸塚の歴史を学びながら遊べるすごろくのブースを出した。クイズラリーでは、戸塚宿の歴史に関する問題を出し、子どもたちに興味を持ってもらうためガチャガチャを使うなど工夫した。



感想・活動を通して得た学び

活動を通して、自分たちで計画しーから作り上げることの大変さを学ぶことができた。宿場まつり当日、子どもたちが楽しんでいる姿を見て達成感を得ることができた。自分自身も戸塚宿について学びながら幅広い世代の方々と交流することができ、良い経験になった。今回、親子連れの方が少なかったためか手が空く時間が多かった。そのような場合にはほかのブースを手伝うなど積極的に自分から行動することが大切であると思った。

今後に向けて

夏期休暇に入る前から誰がどこのブースを担当するか決めていたため、夏期休暇中に班ごとに準備をすることができた。ブースごとに分かれて準備をしたことによりスムーズに準備を進められた。しかし、班ごとに活動することが多く各班の進行状況をセクション全体で共有できていなかったため、ほかの班がどのような活動をしているのか全体で把握できていなかった。また、来場した子どもが少なかったためか学生が時間を持て余しているようだった。今回の反省を踏まえ、各班の進行状況を報告する機会を設けること、ブースを減らすことを検討する必要がある。

（学生メンバー 心理学部心理学科）

◇オータムフェスタ 2018

目的	子どもたちに楽しく防災に親しんでもらう
場所	横浜市消防局横浜市民防災センター
活動内容	子ども向けブースの出展
活動日時、 参加人数	2018年11月11日(日) 10:00~15:00 7名

実施概要

横浜市消防局や、(株)クレディセゾン、損害保険ジャパン日本興亜(株)などの協力のもと、横浜市民防災センターにて実施された「オータムフェスタ 2018」において学生ブースを出展・運営した。当日は、折り紙で作った魚を釣る魚釣りやペットボトルを使って行う輪投げの二つのブースを出展した。



感想・活動を通して得た学び

私は、この企画において当日のリーダーを務め、メンバーのバランスを見ながら運営スタッフの方との連絡などを行った。この企画は、初めて私たち1年生が主体となってお手伝いさせていただいた企画で、それ故緊張感もありつつも、子どもたちに楽しんでもらえるブース作りができたと感じている。イベントを通して自分自身も防災を学びながら、子どもや保護者の方、さらに消防士の方とも交流ができとても貴重な経験になった。また、当日の来場者の多さにも驚かされた。私は市民の防災意識向上を図るこのようなイベントにこれまで参加したことがなかったので、今回こういった形で携わることができ嬉しく思った。

今後に向けて

オータムフェスタ 2018 は1年生が主体となっていく活動としては初めてのものであったので、学生メンバー間での情報共有や当日までの準備に慣れておらず、少々混乱が生じる場面もあった。しかしその分、活動全体を通して企画実行の流れや注意する点を把握できたという面もあり、今後のあらゆる活動に生かしていこうと思う。また、今回の反省として、「子どもたちに楽しんでもらう」という事項を優先してしまい、学生ブースに防災の要素を充分に取り入れられなかったというものがある。企画の趣旨・ニーズに沿ったものを考えていかなければならないと感じた。今後のイベントなどでは運営側の方と事前の打ち合わせをより重視し、学生メンバー同士の話し合いを重ね、ボランティアとしての質を高めていく。

(学生メンバー 法学部法律学科)